

普及活動現地情報 「農業現場では、今」

令和2年11月号



【西牟婁振興局】重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】
～ウメ「橙高」主幹形栽培実証園のせん定研修会～

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 2
1. 和海地方農村青年交流会を開催 ～極甘みかん収穫とシェフを招いたスイーツ作り体験～	
2. 和海地方スマート農業推進協議会研修会を開催	
II 那賀振興局	3 - 4
1. 技術研修会を開催 ～紀の川市環境保全型農業グループ～	
2. 梅のカットバック&新梢管理の栽培講習会を開催～JA紀の里梅部会～	
III 伊都振興局	5
1. はたごんぼの収量調査・現地検討会を実施	
IV 有田振興局	6 - 8
1. 辛味果実の発生しないシシトウガラシ「ししわかまる」の産地化に向け、 栽培管理法の改善を進める	
2. 保田小学校でみかんの出前授業（収穫体験）を開催！	
3. 今年もみかんの厳選出荷に取り組みます	
V 日高振興局	9 - 13
1. 印南町4Hクラブが清流中学校で職業学習を指導	
2. 日高地方農業士会女性部会が現地研修を実施	
3. 日高川町4Hクラブ活動「高糖系サツマイモ」の試作(収穫)	
4. 日高地方生活研究グループ連協が他団体と意見交換会を開催	
5. 日高地方農村青年交流会を開催	
6. 御坊市農業士会が研修会を開催	
VI 西牟婁振興局	14 - 16
1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】 ～ウメ「南高」摘心実証園、「橙高」主幹形栽培実証園のせん定研修会を実施～	
2. 女性農業者セミナーを開催！～ウメの栽培技術を学ぶ～	
3. 「花のある豊かな暮らし」を实践！西牟婁地方生活研究グループが地元産の切り り花を使ってフラワーアレンジメントの研修会を開催	
VII 東牟婁振興局	17
1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】 ～イチゴハダニ類の天敵防除実証圃を設置～	
VIII 農林大学校	18
1. 1年生 インターンシップの実施	
IX 農林大学校 就農支援センター	19
1. 特別研修「ジャム加工について」を開催	

I 海草振興局

1. 和海地方農村青年交流会を開催

～極甘みかん収穫とシェフを招いたスイーツ作り体験～

11月1日、和歌山地方農村青年交流促進協議会（会長：井口和哉氏）及び海南市4Hクラブ連合会（会長：志賀友哉氏）主催で和海地方農村青年交流会が開催された。この交流会は、地域の農産物や伝統文化に関する体験交流を行うことにより、地域の魅力や農業・農村生活に対する理解と関心を深めることを目的として毎年開催している。

当日は県内各地から女性5名とクラブ員男性6名が参加。海南市下津町のみかん園地にて完熟ゆら早生の収穫体験を行った。収穫したみかんをいくつか選び決まった重さに近づけていくゲームをしたり、クラブ員から美味しいみかんの見分け方や、片手採りの収穫方法の紹介があった。

収穫体験のあと、JAながみねとれたて広場内調理室に移動し、海南市の果物を使った洋菓子店「アンシャンテ」のパティシエを講師に迎え、収穫したみかんを使ったスイーツ作りを楽しんだ。参加者からは「収穫したみかんがとても甘く美味しかった」、「農家の方とたくさんお話ができ楽しかった」、「農業に対するイメージが変わった（楽しい）」など農業に対して好意的な感想が多く聞かれた。

農業水産振興課では、今後も、農業者と消費者との交流を支援する。



みかん狩りを楽しむ参加者



収穫したみかんを使ったスイーツ作り



試食会

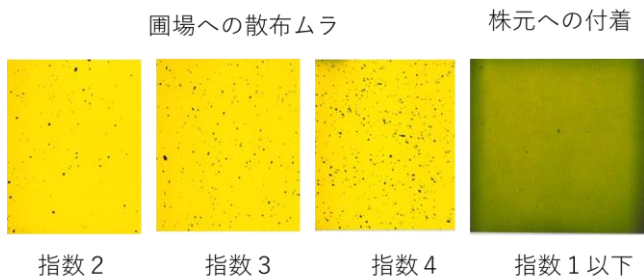


講師先生が作ったケーキ

2. 和海地方スマート農業推進協議会研修会を開催

和海地方スマート農業推進協議会※（会長：東尾勝司氏（JAながみね））は11月13日に紀美野町中央公民館で研修会を開催した。研修会では、農業水産振興課川村普及指導員が本年度実施した農業用ドローンによる水稲への農薬散布試験結果について報告した。農業用ドローンでの農薬散布は、ややムラがあるものの、比較的均一に散布できた。しかし、株元への薬液付着は少なく、稲の株元に生息しているトビイロウンカの防除は難しいと考えられることから、多発年には農業用ドローンでの早期防除と状況に応じて粒剤や手散布による追加防除が必要なことを説明した。続いて、株式会社未来図の藤戸輝洋氏及び、西日本グリーン販売株式会社の杉本泰氏からドローンの最新活用事例や農業用ドローンによる農薬散布技術について説明があった。その後、近隣の水田に移動し、両社が保有するドローン「Agras MG1（DJI 社製）」と「P30（XAIRCRAFT JAPAN 社製）」の飛行実演を行った。

参加者からは「農薬付着状況や防除効果が参考になった」、「ドローン2機種のパフォーマンス等情報交換もでき良かった」などの感想が聞かれた。今後、協議会では2月に研修会及び検討会を開催し、本検証結果等を基に農業用ドローンを活用した営農体系確立を目指す。



感水紙による薬剤の付着状況 指数：1（少）～8（多）

試験ほ場での薬剤付着指数2～4、平均3。

株元への薬剤付着は指数1より小さい。



研修会



ドローンの性能等について説明

※ 構成員：農業用ドローン保有生産者、管内市町、管内JA、海草振興局

Ⅱ 那賀振興局

1. 技術研修会を開催 ～紀の川市環境保全型農業グループ～

11月9日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林元氏）は「雑草があれば2ヶ月で有機野菜作り始められる」と題して、NPO法人「大地といのちの会」理事長の吉田俊道氏を講師に招き技術研修会を開催し、関係者を含め25名が参加した。

吉田氏は、九州大学農学部大学院修了後、長崎県庁に入庁、農業改良普及員として県内の農業指導に従事され、県を退職した1996年に有機農業に新規参入、1999年からNPO法人「大地といのちの会」理事長として、「生ごみリサイクル菌ちゃん野菜作り」と言う栽培方法などを全国に広める活動を行っている。

今回の研修会は2部構成で行われ、第1部では雑草を活用した有機野菜作りのもととなる土づくりの実演があった。ほ場で雑草をかき集め、土を散布し、その上に黒マルチを敷設して糸状菌を発生させて柔らかい土壌に変える手順を教わった。

第2部では、その糸状菌を有効活用するため、糸状菌のエサとなる有機物の竹や草などの投入方法について説明があった。

参加者からは、「ミミズのいる畑は一般的に良い土だと言われているが、なぜ良くないのか」、「竹炭の作り方は」など熱心に質問があった。

農業水産振興課では、会員らの経営や栽培の参考となる研修会を今後も支援する。



研修（第1部）



研修（第2部）

2. 梅のカットバック&新梢管理の栽培講習会を開催

～ J A 紀の里梅部会～

11月20日、J A 紀の里梅部会（会長：杉井正幸氏）では、うめ研究所の城村主査研究員を講師に招き、梅のカットバックと新梢管理の栽培講習会を開催し部会員6名、営農指導員6名、普及指導員1名が出席した。講習会では、新梢の摘心処理による結果母枝を確保する技術を組み合わせて収穫量を維持しつつ、作業管理の効率を向上させる技術などが紹介された。

今後は、J A 紀の里、うめ研究所、農業水産振興課が協力しながら地域への技術普及を図っていく。



研修会

Ⅲ 伊都振興局

1. はたごんぼの収量調査・現地検討会を実施

橋本市西畑地区では、くにぎ広場・農産物直売交流施設組合（組合長：北岡純子氏）が、昭和初期に一度栽培が途絶えた地域特産品の「はたごんぼ」を復活させ、栽培振興を行っているが、はたごんぼの発芽率の低さや労力面から生産量が伸び悩んでいる。そこで、農業水産振興課では今年度同地区内に「はたごんぼ」の発芽率向上に向けた試験ほを設置し、かん水や覆土の違いが発芽率に及ぼす影響について調査を行った。その結果、慣行のスプリンクラーかん水＋土壌覆土区の発芽率 24%に対し、試験のチューブかん水＋バーク覆土区は 81%と発芽率が向上した。

11月10日、収穫時期を迎えたことから、同試験ほの収量調査と現地検討会を開催し収穫物を展示して耕種概要や栽培のポイントなどの説明を行った。

収量調査の結果、重量はあるが、トレンチャーでの深耕処理が無かったためか、地下部の伸長が止まり長さは平均 40cm 程度と短かった。

現地検討会では、本試験の概要と結果を大嶋普及指導員が説明し、全体を通じての栽培ポイントを久保普及指導員が説明した。組合員からは害虫対策やトレンチャーを使わずに伸長させる方法は無いかなど様々な質問があった。

当課では、今回の結果をもとに同組合の安定生産に向けた取組を支援していく。



栽培のポイントを説明する久保普及指導員



収穫物の品質調査をする大嶋普及指導員

IV 有田振興局

1. 辛味果実の発生しないシシトウガラシ「ししわかまる」の産地化に向け、栽培管理法の改善を進める

有田管内では金屋地区の中山間を中心にシシトウが生産されている。品種は全てナント種苗株式会社の「葵」であったが、JAありだ蔬菜部会ししとう部門では暖地園芸センターが育成した辛味果実の発生しない「ししわかまる」に着目し、本年度、1,100株を部会で導入し関西市場へ出荷が始まった。

当初は「葵」と同じ規格の出荷形態（パック）で出荷していたが、部会で出荷規格を検討し、7月から2L規格を50gのミニパックへ詰める新規格を設ける等、差別化に取り組んだところ、「葵」よりも高単価で取引された。

しかし、「ししわかまる」はF1の「葵」に比べて草勢が弱く、秀品率が低い点が課題である。農業水産振興課では整枝誘引による秀品率の向上を目指し、生産者やJA営農指導員とトンネル栽培において簡易に設置できる誘引法の検討を行っている。

今後当課では、肥培管理の改善と整枝誘引法の更なる検討を進め、秀品率を向上させ、産地化を目指していく。



「ししわかまる」の2L新企画
従来100gのパックに詰めていた2L規格の果実
を50gのミニパックに横に詰めた新規格



トンネルの弓を利用した誘引

2. 保田小学校でみかんの出前授業（収穫体験）を開催！

有田市農業士会（会長：上野山良知氏）では、平成 13 年から地元小学校にみかんの摘果や収穫の指導を行っている。

11 月 4 日、有田市立保田小学校 3 年生（54 名）を対象に、有田市農業士会 7 名と農業水産振興課普及指導員指導のもと、みかんの収穫体験を行った。

当日は 8 班に分かれ、美味しいみかんの見分け方や「ほぞ」が高くなるように 2 度切りすることなどを指導した。収穫後は、当地方のむき方の説明「有田むき」を体験した後、全員で試食を行い、収穫したみかんは給食にも提供された。

摘果～収穫体験と 1 年を通じて学習したことで、みかんづくりの苦労や収穫の喜びを子ども達に体験してもらうことが出来た。

今後も当課では農業士と連携して農業教育の支援を行っていく。



みかんの収穫体験



みかんの試食

3. 今年もみかんの厳選出荷に取り組めます

平成 27 年度から始まったみかんの厳選出荷は、流通関係者から好評のため、本年度も継続して、有田みかんのブランド確立を目指し各選果場が取り組んでいる。

早生みかんが本格的に始まる 11 月 11 日、マスコミ向け PR を J A ありだ A Q 中央選果場で開催した。

厳選出荷は、9 月に糖度 9 度、10 月に糖度 10 度、11 月以降は糖度 11 度を上回るみかんを「厳選みかん」と表示して販売する。

当日は、テレビ局 3 社、新聞社 2 社の計 5 社からの取材があった。

選果風景の撮影の後、情報提供として県果樹園芸課立石課長より今年の生育概要を説明し、県農松原果実販売部長よりこれまでの厳選出荷の取組と本年産の販売方針について説明があった。なお、今年の厳選出荷の目標数量は昨年同様の 4 万トンを設定している。

その後、収穫風景の取材はマルチ被覆キャンペーンに取り組んだ有田市宮原町の園地で行った。

マルチ被覆キャンペーンは有田みかんの評価向上、厳選みかん出荷率等の向上を目的に関係機関の協力のもと 10 園地で開閉式マルチを新たに設置した取り組みである。その効果もあり、果実の着色も良く、美味しいと参加者から好評であった。



A Q 中央選果場での取材



マルチ栽培ほ場での取組説明

V 日高振興局

1. 印南町4Hクラブが清流中学校で職業学習を指導

11月6日、印南町4Hクラブ（会長：村上弘樹氏）の会員5名は、印南町立清流中学校からの要請を受け、2年生（16名）を対象に職業学習（農業）の指導を行った。

今年度の中学2年生は新型コロナウイルスの影響で、様々な職場での職業体験が実施できない中、昨年までプロジェクト活動で行っていた出前授業が好評であったことから、「職業学習の一環で『農業』という職業について教えてほしい」との声がかかり実施に至った。

まず、2年生教室において、4Hクラブの活動内容や印南町の農業を紹介した。今年度のプロジェクト活動であるYouTube動画の紹介は、生徒たちも興味津々であった。（これ以降、動画の再生回数が伸びている模様）。続いて、印南町の農業の紹介は、パワーポイントを用いてそれぞれの会員の得意分野を丁寧に説明した。

また、事前に生徒たちから聞いていた35の質問に対して、簡潔にわかりやすく答え、生徒たちはもちろん、先生方にも『農業』という職業を身近に感じ、関心をもってもらうよい機会となった。

その後教室を移動し、スプレーカーネーションやスターチス、カスミソウなど、会員が栽培した色とりどりの花を用いたフラワーアレンジメントの指導を行った。基本のやり方を説明後、生徒たちは思い思いの花を選び、自由にアレンジメントを楽しんだ。普段は花にふれることの少ない生徒が多かったが、それぞれ満足いく仕上がりに、うれしそうな表情が印象的であった。

後日、生徒たちからお礼状が届き、会員たちは生徒たちが農業に興味をもってくれたことや感謝の言葉に触れ、達成感と『農業』という職業への誇りを改めて感じる事ができた。



『農業』という職業についての講義



フラワーアレンジメントを楽しむ生徒たち

2. 日高地方農業士会女性部会が現地研修を実施

11月9日、日高地方農業士会女性部会（部会長：二葉美智子氏）では、部会員15名が参加し、由良町で温州ミカンの栽培管理と興国寺の見学等の現地研修会を実施した。

最初に、温州ミカンの園地で部会員である片山綾子氏から栽培管理について説明を聞いた後、部会員からは、「品種は何なのか」、「サル被害はないのか」、「いつ頃収穫するのか」など多くの質問があった。

次に、部会員らは興国寺に移動し、副住職の案内で寺内を見学した後、寺の一室で情報交換を行った。

部会員からは、「コロナ関係の補助金を使って農機具を購入する」、「農作物の盗難防止対策は、どうしているのか」、「鹿や猪の被害が多い」、「梅の新商品の開発を考えている」など話題が出され、久しぶりに出会った部会員らは和気藹々とした雰囲気の中で情報交換を行った。

農業水産振興課では、今後も女性部会活動を支援していく。



温州ミカンの栽培管理を学ぶ部会員



情報交換

3. 日高川町4Hクラブ活動「高糖系サツマイモ」の試作(収穫)

日高川町4Hクラブ（会長：松井勇樹氏）では、町内の育苗センターが供給するねっとり食感の高糖系サツマイモ（甘ちゃん）の試作に取り組んでいる。昨年からの従来栽培方法を見直したことで、収量や品質が向上したため、本年はこの技術を基に面積を広げ増産を図った。

6月2日に苗を定植、11月10日に収穫を行い、昨年より約60kg多い200kg/aのイモを収穫することができた。また、150g以上の上物が半分以上を占め、クラブ員は本系統の栽培技術の習得に手ごたえを感じ、次年度以降の栽培計画に対して「もっと増やそう」など、意欲的な意見が聞かれた。収穫したサツマイモは、これまでクラブ活動のPRや特産としての認知度向上、各自の農業経営の発展のため、同町で開催されている「農業祭」で、焼き芋にして販売・PRしていたが、本年は新型コロナウイルスの影響でイベントが中止となった。しかし、近年国内のサツマイモの需要が高まり、価格が上昇していることを踏まえ、

今後は志向性の高い消費者をターゲットに、農家直販のネット販売に挑戦し、PR・販売促進を図る計画である。



収穫作業を行うクラブ員



サツマイモの調整・選別作業を行うクラブ員

4. 日高地方生活研究グループ連協が他団体と意見交換会を開催

11月12日、日高振興局別館で日高地方生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子氏）役員と紀州日高漁協女性部のおさかなママさんがアカモク料理の美味しい食べ方について意見交換会を行い、会員及び関係者等14名が参加した。

最初に、生活研究グループの役員が考案した料理レシピ12品について作り方等説明した後、紀州日高漁協の大畑佳久事業部長からアカモクの特徴と使い方について説明があった。

大畑事業部長は、「由良町の戸津井地区で収穫したアカモクを加工し、真空パックにして冷凍したものを販売している。アカモクのネバネバ成分である「フコイダン」が食物繊維で美容や健康に良い。山芋などのネバネバの食材とも相性が良い。ネバネバが特徴なので、加熱しすぎないこと」などを話された。会員からは、「どこで買えるのか」、「封を開けたら、使い切らないといけないのか」、「佃煮にできないのか」などの意見があった。今回考案した料理レシピは、学校給食関係者へも提供するとともに、今後も漁協女性部との意見交換を行いながら、食育を推進していくこととしており、当課としても当グループの活動を支援していく。



意見交換会

5. 日高地方農村青年交流会を開催

11月15日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：西山和克氏）主催による、日高地方農村青年交流会を開催し、農村青年11名と県内消費者8名が参加した。

本交流会は、日高地方の農産物や農業について直接消費者に知ってもらい、その魅力を感じてもらおうとカーネーションの収穫体験等を行った。

まず、西山会長のほ場で、カーネーションの収穫方法について説明を受けた後、参加者らは様々な品種の中から好きな花の収穫を体験した。続いて、各市町の4Hクラブ会長より日高地域の農産物について紹介しクラブ員自身の農業経営についての話も交えながら説明があり、地元の農産物や農業について知ってもらう良い機会となった。最後に、収穫したカーネーションと日高産の花を使った花束づくり体験を行った。

参加者からは、「実際にハウスに入り、様々な品種の中から自分の好きな花を収穫できて楽しかった」、「自分で収穫した花を使ってキレイに花束にできて良かった」、「また機会があれば交流会に参加したい」と好評であり、体験を通じて地元の農産物や農業について知ってもらう良い機会となった。

本協議会では、今後も農業の良さを知ってもらえるような交流会を企画し、幅広い消費者や地元の方とのつながりを深めていきたいと考えている。



カーネーションの収穫体験



農産物についてのお話



花束づくり体験

6. 御坊市農業士会が研修会を開催

11月24日、御坊市農業士会（会長：岡 雅幸氏）は、「スマホで始めるネット販売の現状と活用術」と題して、御坊市役所の大会議室で会員17名の参加のもと、研修会を開催した。

会員からスマートフォンの機能を農業経営に活かす方法を学びたいとの意見があったことから、今回の研修会の講師には、中小企業・小規模事業者の支援を目的に経済産業省が各都道府県に設置している「和歌山県よろず支援拠点」の出張相談会を利用し、WEB解析やEC事業支援の専門家である吾妻加奈子氏と酒井康之氏を招いた。

研修会では、現在運用されているフリーマーケットのサイトや農産物の販売に特化したサイトについて、それぞれの特徴、手数料、運用方法等についての解説があった。その後、販売サイトに出品する際、必要となる商品写真の撮影方法や効果的な商品紹介について、みかんを使い具体的に説明を受けた。

直売や委託販売に取り組んでいる会員からは、「今後ネット販売もツールの一つとして取り組んでいきたい」との感想があった反面、ネットで商品購入したことがない会員もおり、講師からは、「一度ネットで商品を購入して下さい」とのアドバイスもあった。

農業水産振興課では、今後も農業士会活動を支援していく。



密にならないように



ネットの説明

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】 ～ウメ「南高」摘心実証園、「橙高」主幹形栽培実証園のせん定 研修会を実施～

今春、ウメ「南高」の摘心処理研修会を行った際に参加者から、「摘心処理樹のせん定方法について研修をして欲しい」との要望があったため、11月11日に田辺市中三栖の実証園（14年生樹、10本、摘心処理8年目）において研修会を実施し、若手生産者、JA紀南営農指導員、農業水産振興課普及指導員の計10名が参加した。

前田普及指導員から主枝や亜主枝の骨格作りは基本的なせん定方法と同じであること、摘心処理を数年実施すると結果層が高くなっていくこと、また結果枝が密集しすぎると下枝が陰になり枯れ枝が増えることをポイントとして挙げ、結果枝の切り返しや間引きせん定を織り交ぜることを実演しながら説明した。参加者は説明を聞いた後、実際にせん定を体験しながら理解を深めた。

また、11月18日には田辺市上芳養のウメ「橙高」の主幹形栽培実証園（6年生樹、48本／4a）において、せん定研修会を実施し、園主、JA紀南営農指導員、うめ研究所研究員、当課普及指導員の計9名が参加した。実証園の管理経過や今年産の収量調査結果を前田普及指導員から報告した後、「橙高」の新たな加工方法の検討や、樹形をコンパクトに維持しながら収量を早期に増やす「スレンダースピンドル」という整枝せん定方法について、うめ研究所の城村主査研究員から実演を交えながら説明を受けた。説明後に参加者が手分けしてせん定を行い、開心自然形のせん定方法とは違った整枝方法に戸惑いながらも、ポイントを確認した。

当課では、ウメ「南高」の安定生産や「橙高」など新品種の特徴を活かした多様な加工方法を検討するため、今後とも生産者や関係機関と連携しながら栽培実証園等での研修会を開催していく。



「南高」摘心実証園（中三栖）



「橙高」主幹形栽培実証園（上芳養）

2. 女性農業者セミナーを開催！～ウメの栽培技術を学ぶ～

農業水産振興課は、11月6日にうめ研究所において、女性農業士および生活研究グループ会員25名が参加して女性農業者セミナーを開催した。本セミナーは、「ウメの栽培技術を学びたい」という女性農業者からの要望を受け、技術研鑽と交流を通しての仲間作りを目的に企画した。

セミナーは、研修会と交流会の2部構成で、研修会ではうめ研究所の研究員3名から新品種「星秀」の特性やカットバック+摘芯処理栽培技術による省力化、クビアカツヤカミキリムシなどの注意すべき害虫についての研究成果を学んだ。その後、ほ場において城村主査研究員から剪定方法について実技を交えて説明があり、参加者らは、「私だとあの枝を切る」、「この枝は残すの？」などと言いながら熱心に受講した。交流会では、宮前普及指導員がペットボトルを使ったハンギングバスケットの作り方を説明し、各班に分かれて賑やかにパンジーの寄せ植えを作製した。

セミナー参加者からは、「詳しく剪定の仕方を教えてもらえて勉強になった」、「寄せ植えが楽しかった」との感想の他、今後の研修内容として「改植、接ぎ木などの栽培技術」、「ストレッチ体操」、「時短料理、うめ料理」などの意見が出された。

当課では引き続き女性農業者が活躍するための支援を行っていく。



せん定講習会



交流会で寄せ植えを作成



作製したペットボトルの寄せ植え

3. 「花のある豊かな暮らし」を实践！西牟婁地方生活研究グループが 地元産の切り花を使ってフラワーアレンジメントの研修会を開催

西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会（会長：森川敏子氏）は、11月19日に田辺市上秋津農村環境改善センターにおいて、会員25名が参加してリーダー研修会を開催した。

今回は、部屋に花を飾る、身近な方に花を贈るなど、日常に「花のある暮らし」を取り入れ、心豊かで素敵な生活を送ることを目的に「フラワーアレンジメント」研修会を実施した。

最初に、農業水産振興課の宮前普及指導員が県内の切り花生産について紹介するとともに、普段から花に接する機会を増やそうと若い世代に対して積極的に「花育」を行って欲しいと会員らに呼びかけた。

その後、白浜町のガーベラファーム西浦の西浦信枝氏から、西牟婁地域で栽培されたスターチス、ガーベラ、トルコギキョウ、宿根カスミソウなどを使ってフラワーアレンジメントを教わった。会員らはアレンジメントの出来映えを想像しながら、花を切る長さ、花を挿す位置、角度などを西浦氏から丁寧に教えてもらい、素敵なフラワーアレンジメントを完成させた。帰宅後、研修で残った花を使ってアレンジメントを作った会員もおり、早速「花のある暮らし」を实践した。

当課では今後も生活研究グループの活動を支援する。



講師が説明



研修の様子



作製したフラワーアレンジメント

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】

～イチゴハダニ類の天敵防除実証圃を設置～

11月27日、那智勝浦町苺生産組合(会長：栗野稔近氏)は、イチゴの天敵(チリカブリダニ)を利用したハダニ類の防除実証圃を設置した。

イチゴの主要害虫であるハダニ類は化学農薬抵抗性の発達が問題となっており、化学農薬とそれ以外の方法を併用した防除方法の導入が必要となっている。

当日は、農業水産振興課浅井普及指導員から天敵の放飼方法と当面の管理方法、ハダニ類の観察の重要性について説明を行った後、園主の松出氏が実際に天敵の放飼を行った。

松出氏からは、「去年は化学農薬との併用でうまく春先までハダニを抑えられたので、今年も天敵を利用してハダニの発生を抑えたい。」との抱負があった。

今後は、実証圃のハダニ類と天敵の生息数を調査することで天敵の効果を確認するとともに、葉かきした葉に付着した天敵の再利用を検討し、現地研修会などを通じて地域に普及を図っていく。



天敵放飼



ハダニ数の調査

Ⅷ 農林大学校

1. 1年生 インターンシップの実施

農林大学校農学部では、10月30日から11月13日までの15日間、1年生19名を対象とした「インターンシップ研修」を実施した。この研修は、学生が自らの希望進路に合った農業者や企業等での就業体験を通じて、職業感覚や社会人としての意識を醸成することを目的としている。

期間は、1年次で15日間、2年次で15日間の合計30日間の実施としている。

学生はそれぞれの研修先で、学校と異なる生活リズムの中、社会人として仕事に取り組む姿勢などを学習した。

本研修で学生は農家や企業の経営を体験したことで将来の進路について具体的なビジョンを得られた。



学生と受け入れ先

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 特別研修「ジャム加工について」を開催

11月25日、就農支援センターにおいて、南部高校の小川拓巳先生と山鷲仁志先生を講師に招き、特別研修「ジャム加工について」の実習を実施した。この特別研修には社会人課程と技術修得研修の研修生14名が参加した。

まず、講師からジャム製造の原理でペクチンの種類やゲル強度、ジャム作りのポイント等について説明を受けた。その後、講師による実演と並行して、就農支援センターで収穫したイチゴとブルーベリーを鍋で煮詰め、ペクチンを混ぜたグラニュー糖や上白糖を数回に分けて投入しながら糖度調整を行ってジャムを完成させた。

研修生の中には、就農後に加工品の販売を目指している研修生もいて、熱心に学んでいた。

本研修を通じて市場出荷が難しい生産物の規格外品を加工することで収益につなげることを学び、研修生が6次産業化について考えるきっかけとなった。



説明を受ける様子



ジャム作りの様子

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489